令和４年度の研究成果と課題

●成果

●学習指導要領の目標に準拠した評価の基本的な考え方について、共通の文献を通して学び、指導と評価について考えるきっかけとなった。

・学習指導要領に規定される観点別学習状況の評価について、理解が深まりつつある。
・観点別学習状況の評価を適切に行うためには、評価規準の設定が必要であることが分かった。

★学習評価とは

- 学習評価は児童生徒の学習状況を評価するものである。

- 「観点別学習状況の評価」とは、児童生徒の学習状況を複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のことである。

★学習評価とは

・目標に準拠した観点別学習状況の評価にあたり、観点ごとに評価規準を設定する必要がある。

・評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現状況を判断するよりどころを表現したものである。

●成果

●国語、算数・数学、ことばかずの授業実践を通して、目標や指導内容、手立てに関する意見交換を行い、手立ての改善や教材教具の改善に結び付けることができた。

【具体例】ことばかず（自立活動）

（悩み）
・２方向のリング抜きで、抜き終えたあとにすぐ手放してしまう。
（アドバイス）
・終点の容器の色を見やすくする。大きさを変える。
・肘を支え、上肢の動きを促す。

●成果

●共通の指標として、「ラーニング・マップ」（©静岡大学教育学部）を使うことで、児童生徒の国語、算数・数学の学習状況について把握することにつながった。

・国語と算数・数学の各段階の内容とその系統性について学び、学習の順序について考え、指導のイメージを高めるきっかけとなった。

●成果

●各教科の年間授業計画、個別の指導計画について、評価規準を記載する新様式（全学部統一）での試行が次年度よりスタートすることとなった。

・評価規準について知り、意見交換しながら設定方法を考えることができた。

※5は試行期間であり、R6には完成新書式としてスタートできるようにする。

●課題

○年間授業計画、個別の指導計画の新様式の試行に際して

・目標の設定方法、各教科の「単元づくり」のプロセスについて、全体で共通理解を図る必要がある。

●課題

- 学習指導要領の目標に準拠した評価の基本的な考え方については周知した。しかし、学習指導要領に示される各教科の目標に準拠した評価については、特別支援学校では難しい場合もあるのではないか等、教員の困り感がある。

- より具体的な記述評価をした方が児童生徒の実態を捉えやすい、学びの連続性を実現するためには記述評価が必要、という意見もある。